苦労人の苦労人による苦労人の話

音無

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
苦労人の苦労人による苦労人の話

【Ｎコード】
Ｎ１９７８Ｒ

【作者名】
音無

【あらすじ】
「もう、どこの世界に行ってもしーらない！」何言ってんの？こいつ。
俺、後藤祐樹はある日トラックにはねられて死んでしまう。次に目が覚めた場所はなんと、神様のいる世界！？もしかして俺、この世界で神として生きていくの？
とか思ったら異世界に落とされたり。俺が静かに眠れる日は来るのか――

神様に振り回される苦労人さんの話です。

プロローグ　苦労人、殺される。

ドンッ

大きな何かが当たった音がした。

それを確認した瞬間、俺、後藤　祐樹の体に信じられないほどの痛みが走る。
そのとき、俺はわかった。
ああ、俺―――　トラックに轢かれたんだ、と。

なぜこうなってしまったのか、過去を振り返ってみよう。

家を出て。
信号が青になって。
急いで走って。
信号が途中で赤になって。

　　轢かれた。

自業自得じゃね？

ツッコミを入れつつ、俺は過去を振り返る。

ああ、短い人生だったなぁ。
１６だよ！？１６で死ぬなんて。
いったい誰が考えただろう。

え？自分は何時も考えてるって？？

あー・・・。それはきっと、精神が逝かれてるんだ。

っていうか、俺、誰と話してんの？

俺も精神逝かれてきたかな？

俺はそう思いながら、意識がだんだん遠のくのが分かった。

ああ、死ぬのか。

死ぬなら、一回だけ、一回だけで良いから、

両親の顔が殴りたかった。

そう思って、俺の意識は完全に遠のいた。

＊＊＊

「おっきて起きて、起きるのだぁ～！」

なんだかうざっ・・・とても気になる歌が聞こえ、俺は目を覚ます。

「ん・・・。」

「あ、起きた～！」

重い体を起きあげ、声の先を見てみると、六歳ぐらいの少女が居た。

「・・・・・・・・・・・・・・・・・・。」

「おっはよー！」

何だこいつ。無駄にテンション高いな。

「ひっどーーーい！ユメ、泣いちゃう！！」
「勝手に泣けよ。あ、声出ちった。」
「まったくぅ・・・。ひどいな、祐樹君は。そんなんじゃ生き返らしてあーげないっ！」

プイッとうざったい奴――もとい少女はそっぽを向く。
え？何？生き返らしてくれんの？
カラ○ル（だっけ？）的な？あ、レイ○ボーだったか？
いいや、もう・・・。カラ○ルかレイ○ボー的な？
こんな感じの物語じゃなかったっけ？

「え？じゃ、まさか神？まっさかー！」
「そのまさかだもん！」

くるりっと少女は振り返る。

「ユメは神様！未練っぽいのがあったから生き返らせて上げよっかなー、って！」

い・た・い☆

ああ、夢だ。これは夢。目を覚ますんだ、オレェェェェェェ！！！！

「あ、むりだよぉ、きみ、死んじゃったから。」

死んだ・・・？

「いやいや・・・。死んでたらいないっつーの・・・」
「・・・もうっ！めんどくさーい！やりずらい！面白くない！
私、どんな世界に行ってもしーらない！」

どんな世界？・・・え？アフリカとか？サバンナとか？
まさか宇宙！？死ぬじゃん！
生き返ったのに死ぬとか。

俺がそんなことを考えていると、俺の下が開いた。

ぱかっ

「え！？」
「ばいばーい！お元気でー！！あ、言い忘れてたけど！！君に特別な能力付けといたから！」

聞こえねーよ！！！！！！！！！！

俺の耳には

「ばいばーい！お元気でー！！あ、いいわす・・・たけ・・・とく・・・能力・・・とい・・・たか・・・！」

としか聞こえてねーぞ！

能力ってなに！？
ハ○レンのれ○んきんじゅつ！？
それともフェ○アリーテイルのまほう！？
それともハ○ーポッターのまほー！？
それと（（強制終了

俺は力いっぱいに叫んだ。

「こ・・・こんちくしょー！！！変態きもいイタイうざい自称神！

！死ねぇぇぇぇぇぇぇぇ！！！！」

俺は暗闇に落ちていった。

第1！　苦労人、特別な能力を発見する。

ひゅーーーーーーーーーーーーーー

落ちてます、落ちてます。

俺、今落ちてます。

うわあ、高いなぁ、あはははははははははははははは←壊れ

ああ、だんだん地面が近づいてきた・・・

って、おい！！

どどどどうしよう、死ぬ、俺、死ぬよ・・・。

俺はぎゅっと目をつぶる。

たぶん、このまま落ちたら死ぬだろう。

特別な能力で死なないとか無いかなー・・・。

なんて、軽い現実逃避をしつつ、俺は地面が近づいてくるのが分かる。

ああ・・・。生き返った意味無いじゃん。

ていうか、あの神、俺を生き返らせる意味なんてあったのか？

疑問を抱きつつ、俺は心の準備をした。

地面がすぐまじかに迫り、俺が心の準備をした時――――

ドオオオンッ！！！

なにか、とても重いものが落ちた音がし、同時に俺の足がびりびりと痛んだ。

俺は、足以外にどこにも痛みが無いことを不思議に思い、そろり、と目を開けてみる。

と、俺の周りには隕石が落ちたようなクレーターが出来ており、そのど真ん中に俺が立っていた。

「え・・・。俺、なんでこんなところに・・・」

俺は、生きていた、と言うことよりも、なぜクレーターの真ん中に居るのか、というの方が気になっていた。

最初は、月にでも来て丁度クレーターの真ん中に落ちたのか、と思ったのだが――――

周りに木がたくさんあることから、その考えは消す。

「じゃあ・・・。このクレーターは、俺が造ったのか・・・？」

そもそも、あの高さから落ちて、無事な方が不思議なのだ。

どこから落ちたのかは分からないが、結構な時間落ちていたので、助かる距離から落ちた、と言う事は無いはず。

だったら・・・。

後ひとつ、俺には思いつく可能性があった。

あの高さから落ちて、無事に生きてゆくことが出来る、ひとつの方法が――――

「これが・・・・。

あいつの言っていた、特別な能力っていう奴なのか・・・・??」

第1！　苦労人、特別な能力を発見する。（後書き）

ああ・・・・。
短い・・・・。

これから出来るだけ早く更新出来る様にするので、どうぞ、生暖かい目で見て頂けると嬉しいです。

第2！　苦労人、襲われる

「・・・うっ・・・・・おおおおおおお！！！！すっげぇ！！つよっ、なにこれーー！」

俺はクレーターを見ながら叫ぶ。

うるさいって？いや、でもさ、このクレーター、俺が作ったんだよ！？すごくね！？強くね！？
あの高さから落ちて死なないのも奇跡に近いし、人からかけ離れた能力を持ってるって事なんだぜ！？

俺がなんかよく分からない人と（というか、独り言に近い）話していると、一枚の紙が
上からひらひらひらと舞って落ちてきた。
俺はそれをつかんで広げてみる。
すると・・・

『いやー、ごめんねー？適当なところに落としたら、すーーーっごい事に、君の居た世界じゃ無い所に落としちゃったー！だからさぁ、その世界、魔物とか、危ないのいーーーーーーっぽい出てくるから！魔法とか使えて当たり前の世界、みたいな？あはは☆
夢の機嫌を損ねちゃうからいけないんだよ？だから、まぁ、死なない程度にがんばってねーー！』

・・・・・。
まず、一言。
うっっぜぇーーーー！！！！！！！！！！！！！！

すーーーーっごいとか、すーーーーっごいむかつくんですけど？
危うく俺は紙を破ってしまいそうになったが、抑えた。
ていうか、じゃぁここ、ファンタジーの世界って事か・・・？
危ない魔物とか、出会ったらどうするんだよ・・・。

俺が考えていると、また紙が空から降ってきた。

『魔物に出会ったらどうしようって考えている君へ☆
だからさ、特別な能力付けといたっていったじゃん！
君が危なくなったときとか、やりたいときに、何か能力を強く思い浮かべるの。
危なくなったときは自動的に出ちゃうことが多いけどね！でも、自動的に出ちゃった場合、自分も死んじゃう可能性がでてくるからぁ～・・・。自動的に出さないように気をつけてね！
やりたいときは、その様子とかを自分で思い浮かべるの！火が燃えている様子を思い浮かべて
強く願ったら、本当に火が出てくるってわけ！便利でしょ～。
上級者は、念じなくても自分で呪文とかを決めて唱えるだけで、すぐ能力が出てくるよ！
念じるのには時間が少しかかっちゃうから、唱えるだけって、すっごーーーーーーく便利だよね！
というわけで、説明でしたぁーー！』

あらまぁ！すーーーーーーっごくがすっごーーーーーーくに変わっていることですこと！
でもどっちにしろ、う・ざ・い☆始まり方もうざい。なんなんだ、こいつは・・・。

・・・まぁ、それはおいといて、なんか便利だなぁ、この能力。
試しにやってみよう。
・・・やっぱ、思い浮かべるんだったら、アニメとかそういうやつの方がいいよな・・・。
俺は頭の中で鋼の錬〇術師の錬〇術を思い浮かべてみる。
そして、そのアニメの通りにやってみると・・・

ずううううううううううん！

頭で描いた通り、壁が出てきた。

「おおおおお！！すっげぇ！」

俺は感激をする。
そして、出てきた壁をすりすりと触った。

「おお、この手触りといい・・・！うちにある壁そっくりだ！」

自分の出来栄えに惚れ惚れしつつ、俺は覚悟を決めた。
よし、俺はこの世界でこの能力を使いまくってやる。
そして、あのくそうざい神をぶっ殺してやる！！

さ、そろそろいくか！

「いえーーい！ここから俺、後藤祐樹の第二の人生の始まりだぜー！行ってみヨーカドー！」

なぜここでヨーカドーのＣＭが！？

自分の言動に少々戸惑いつつ、くるりと後ろを振り返った。

すると・・・

「・・・うわぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！！！！！！！」

なんかでかいのが居ました☆

第２！　苦労人、襲われる（後書き）

おい、これでいいのか主人公よ・・・。
かわいそうなくらい苦労人なこの子はいつまでも苦労します・・・。

そして、かなりの鈍感。

こんな主人公を、よろしくお願いしますー

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1978r/

苦労人の苦労人による苦労人の話

2011年10月8日14時55分発行